

沖縄戦を通して平和を考える (2009)

と かしき

渡嘉敷島の強制集団死

「忘れじと 思う心は白玉の 塔に託して 永久につたえん」(渡嘉敷島・中井盛才氏)。沖縄県慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉敷の白玉之塔の石碑。その地には、沖縄県生活福祉部援護課による説明が掲示されています。

『集団自決』 狭小なる沖縄周辺の離島において、米軍が上陸直前又は上陸直後に警備隊長は日頃の計画に基づいて島民を一箇所に集合を命じ「住民は男、女老若を問わず軍と共に行動し、いやしくも敵に降伏することなく各自所持する手榴弾を以て対抗できる処までは対抗し癒々と言う時にはいさぎよく死に花を咲かせ」と自決命令を下したために住民はその命をそのまま信じ集団自決をなしたものである。尚沖縄本島内においては個々に米軍に抵抗した後、手榴弾で自決したものもある。

伊江島 昭20・4・21
渡嘉敷島の強制集団死(集団自決)の一一般住民は、三八・二%(一)

○名)が小学生以下だったのです。(写真は渡嘉志久の浜)



集団自決跡地

「ボロボロになった服を引き裂いた布はしで首を絞められている女性や子供が、少なくとも40人はいた。聞こえてくる唯一の音は、怪我をしていながら死にきれない幼い子供達が発するものだった。人々は全部で200人近くいた」。「細いロープを首に巻きつけ、ロープの先を小さな木に結び付けて自分の首を締めた女性がいた。彼女は足を地面につけたまま前に体を倒し、窒息死するまで首の回りのロープを強く引っ張ったのだ。彼女の全家族と思われる人々が彼女の前の地面に横たわっており、皆、首を絞められ、各々汚れた布団おののふとんが掛かけられていた」(1945年4月2日ロサンゼルス・タイムス朝刊『『野蛮なヤンキー』の噂で「拷問」より死を選ぶ日本人達』より抜粋。渡嘉敷村指定文化財史跡「集団自決跡地」にパネルとして建てられています)。



“美しければ美しきほど 悲しかる島行きゆきて 限りなき恨”

記録映画「アリランのうた オキナワからの証言」の制作活動に参加した橘田浜子氏が詠いました。写真は、アリラン慰霊のモニュメントです。戦後帰郷の道を手を失って沖縄に取り残された渡嘉敷島の元慰安婦ベボンギさんが死後5日目に発見されたことに衝撃を受け、悲惨な犠牲を強いられた女性たちを悼み心に刻むモニュメントの建立を呼びかけました（アリラン慰霊のモニュメントより抜粋）。



現在の渡嘉敷島は、エメラルドグリーンの海に、ダイビングや1月から3月にかけてのホエールウォッチングなど、若者だけでなく中高年層も数多く訪れます。那覇からマリンライナーで35分で到着。渡嘉志久の街を臨むように灰谷健次郎の家が残っています。氏が57歳から移り住んだ島でした。(写真は阿波連の浜から夕陽を撮影) (写真と文：下野祇園)

【ひろばトーク】

「平和的生存権」を全面にかかげ、大々的な権利闘争を 日下部恭久 6

●特集● 急速化する医療破壊と再生の途（I）

地域医療の再生をめざして

——自治体病院の変貌とその背景、地域医療を守るための運動——

- | | | |
|---------------------------|-------|----|
| | 山本 裕 | 9 |
| いのちが守れない！ その苦難に立ち向かう人々 | 松久 芳樹 | 21 |
| いま保健所はどうなっているのか？ | | |
| 地方分権と公衆衛生行政の変遷——保健所行政改革—— | 青木 敦子 | 31 |

●トピックス●

戦争を通して平和を考える2009

- | | | |
|--------------------------------|-------|----|
| 四〇年を超えた千人塚の碑前祭 大阪市旭区新日本婦人の会 | | 36 |
| 空襲のなか、杖と母親を頼りに逃げまどって | 天野 茂夫 | 39 |
| 解雇され自害に追い込まれた酪農ヘルパーのセーフティネットは？ | | |
| —北海道の酪農の町での事例検討会— | 市後 昌代 | 42 |

●連載●

フォーラム

労働問題、今も昔も……。しかし、労使は手をつなぎうる！ 前田 鉄雄 50

【新連載】高鷲学園だより すくすくそだて！

私と学園のあゆみ 尾道 敦子 52

相談室の窓から

青木 道忠 54

自分らしさを発揮して生き、その値打ちの尊さが
等しく認められる

わらじ医者 早川一光の「よろず診療所日誌」

私の地域医療（その4） 早川 一光 56

よりあって おりあって——宅老所よりあい物語——

この世とあの世 下村恵美子 58

育つ風景 親の思い

清水 玲子 60

落合健二のニュース私考 空港はミナトに勝てたか

落合 健二 62

映画案内 『湖のほとりで』

吉村 英夫 64

現代の貧困を訪ねて

反貧困学習 格差の連鎖を断つために 生田 武志 66

海外社会保障事情

フィンランドのろう盲障害者福祉の現状 志藤 修史 68

私の研究ノート 障害のある子どもの放課後・休日

丸山 啓史 70

ホームレスから日本を見れば

フワフワくんまで生活保護？ ありむら潜 72

花咲け！男やもめ

川口モトコ 74

バリアフリーな社会をめざして

障がいのある子どもたちと過ごすなかで気づいたこと 田口 修 75

今月の本棚 35/みんなのポスト 48/ことばで遊ぼう！ 73/

福祉の動き 76

●グラビア● 沖縄戦を通して平和を考える（2009）

渡嘉敷島の強制集団死

福祉のひろば

2009年8月号

●表紙の作品●

神門やすこ



●カット●

川本 浩・田上明子

「平和的生存権」を 全面にかかげ、 大々的な権利闘争を

日下部 恭久さん

三五年前、葉害スモン患者に出合い、運動に参加。葉害の原因となったキノホルムは戦前、アジア大陸侵略の国策上、積極的に使用され、戦後多大な犠牲者を出した。スモン患者は製薬企業や国に損害賠償を求めたが、真の要求は「健康を返せ」であり、「葉害をなくせ」であった。それを「健康権」と言った。

その五年後、障害者の共同作業所運動に出合い、「運動を支える会」を立ち上げた。「どんな障害があっても働く場を」が願いだった。それは、これまでの「労働権」の考え方を超えるもので、要求と運動が新たな権利論を提起した。

二〇年前、市役所にも過労死が相次いだ。「代わりはいくらでもいる。死んだのは自己責任だ」と、労働現場で非人間的競争原理が強大化した結果だった。私が直接関与した市職員二名の過労死認定闘争は、「軽んじられてたまるか！働くものの命」に全て集約させた。「人間らしく働くこと」つまり、「真の労働権」の復権を求めた。

三年前、福岡県高齢者福祉生活協同組合に出合い、いつの間にか理事長になってしまった。高齢者が政治の犠牲者となっている現実を目の当たりにして、引くに引けなくなりつつある。

これまでいろんな運動に偶々^{たまたま}出合い、少し行動を共にしていたら「意地」が出てきてしまった。それは、本来保障されるべき「人間の権利」を政治が奪っていることへの怒りがあったからだ。いずれもが権利を侵すものとの壮絶なたたかいで、「権利を獲得する」ということはそういうことだ」と実践的に学ぶことになった。



くさかべ やすひさ

1946年生まれ。福岡市職員労働組合執行委員長、スモン患者を守る会福岡県連絡会事務局長、ひかり共同作業所を支える会代表、人間らしくはたらく労災職業病九州セミナー代表世話人、金谷過労自殺訴訟を支援する会会長を歴任。

現在、福岡県高齢者福祉生活協同組合理事長、九条の会・福岡県連絡会事務局次長、福岡過労死問題研究会代表世話人、福岡国際交流協会六本松学生交流会館（囑託）。

九〇年代ごろから、運動側に「権利論」が少し薄くなり、「協同・共同論」が押し出されたとき、不安を少し覚えた。この理論の積極面は否定しないが、薬害スモンの発生、ナチス下の障害者排除が示しているように、「人間の権利」の剥奪の裏には、常に戦争政策、軍事優先の政治がある。今日の「人間の権利」の否定、侵害、剥奪の動向と憲法九条改悪の動きはまさにそのことを象徴的に現している。

私は米軍基地近くで生まれ、三歳のときの灯火管制（朝鮮戦争）を鮮明に覚えているし、米軍ジェット機の大騒音のなかで小学生時代を過ごした。六年生のときに習った憲法九条を「これだ」と思い、その思いを抱きながら成人した。仕事のとくも、組合活動のとくも、諸運動に参加しているときも、常に憲法九条があった。

だからこの四〇年間、憲法九条を語り続けてきたが、今まさに「九条を世界に」の正念場だ。

憲法前文にある「平和的生存権」は、抽象的な権利ではなく、長沼訴訟地裁判決、イラク訴訟名古屋高裁判決、そして今年のイラク訴訟岡山地裁判決で、国民の権利闘争を反映して、具体的権利として確立してきた。国民の基本的人権を抑制、剥奪して全面的に攻撃の政治が展開されてはいるが、自分の分野だけでなく、権利剥奪される立場にあるものが「平和的生存権」を全面に掲げ、憲法九条と二五条を環にした権利闘争を大々的に展開する条件は熟している。私も闘争の一員として尽力したい。

◆ 特集 ◆

急速化する医療破壊と 再生の途（Ⅰ）

日常生活圏での急激な医療破壊が貧困とともに住民を直撃しています。

構造改革は、医療、介護や福祉分野に競争と無秩序を導入し、自己責任論を振りかざして、日常生活圏とは別の採算性と効率性による医療構造を持ち込みました。それはもともと不足していた医療体制に追い打ちをかけ、貧困にあえぐ住民のいのちとくらしに真向から襲いかかっています。

こうした医療破壊と再生の途を、今号と九月号の二回にわたって、現地ルポも交えて発信します。

地域医療の再生をめざして

— 自治体病院の変貌とその背景、

地域医療を守るための運動 —



やまもと
山本

ゆたか

裕 (京都自治体労働組合総連合副執行委員長・自治労連自治体病院闘争委員)

1 地域医療・自治体病院の

「三重苦」

地域医療を揺るがす激変

いま、地域医療・病院の根底を揺るがすような激変が全国各地で起こっています。

千葉県銚子市立総合病院・大阪府松原市立病院などでは、突然、病院の休止・廃止が押しつけら

れ、いずれも市長のリコール運動にまで発展しました。

京都でもこの間、京都府立洛東病院の廃止や、町立大江病院・町立精華病院の公設民営化、舞鶴市民病院での公設民営方針の破綻と診療の一時休止問題などがあり、それぞれ大きな住民運動が広がりました。また昨年四月からは府立医大と附属病院が非公務員型の独立行政法人に移行しました。

自治体病院のみならず、京都社会保険病院・日赤病院などの公的病院の見直しの動きや、民間病院でも経営困難などによる閉鎖・廃止、大手医療法人への経営の移行などがつづいています。

全国的に起こっているこうした事態の背景には何があるのでしょうか。私は、この間の政府の構造改革の政治のもとで、地域医療と自治体病院には、「医療構造改革」

「自治体構造改革」「医師不足」の主に三つの面から困難が押しつけられて、いわば三重苦のような事態になっていることに要因があると考えています。

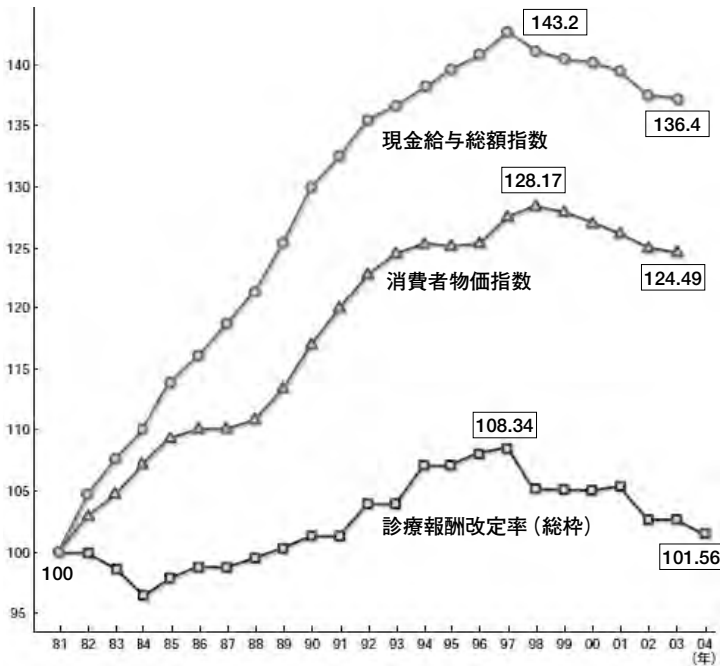
背景に、社会保障と地方を切り捨てる「構造改革」の政治

まず一つは、憲法の生存権を保障する基本としての医療のあり方を根本から変える「医療構造改革」です。国の医療費削減のために、医療制度が相次いで改悪され、「病人が患者になれない」というような深刻な事態が広がっています。

またこの間、病院収入の基本となる診療報酬が削減・改悪され、こうしたことが民間病院を含めて

低医療費政策のもとで、低く抑え続けられてきた診療報酬

1981年以後の、現金給与総額指数、消費者物価指数、診療報酬改定率の推移



独立行政法人「労働政策研究・研修機構」毎月勤労統計調査、総務省統計局消費者物価指数年報（平成15年）
（熊本県保険医協会作成資料より）

病院経営を大きく圧迫する要因の一つになっています。二つめは、自治体の役割や中身を伴い、「一つの自治体に二つも

を変える「自治体構造改革」です。たとえば、市町村合併の押しつけ